

令和5年度(2023年度) 熊本電子ビジネス専門学校 学校関係者評価結果

学校の教育目標

校の三綱領である「進取」「明朗」「誠実」を教育理念の根幹におき、理事長、校長を中心とした指導体制のもと、スローガンに、時代を生き抜く「高い専門性」と「豊かな人間の育成を掲げ、全職員が一丸となって、日々の「一つひとつの教育活動を着実に実践し、常に先を見通す論理性や人間の機微がわかる感性を養い、総合力に富む真の意で社会に貢献できる人材を育成する。

学校関係者評価委員会

- 1) 開催日 令和6年5月24日(金)
- 2) 時間 午後2:30～午後4:00
- 3) 場所 熊本電子ビジネス専門学校 A館303教室
- 4) 出席者 評価委員 5名(3名欠席、後日資料参加)
学校側 8名

評価結果

1 教育理念・目標	評価	エビデンス
自己評価： 教育理念、教育目的、教育人材像等については、学生便覧やHPやパンフレット等に掲載し内外に周知している。年度の節目の行事等、機会あるごとに職員や学生への再確認も意識して行っている。ただ、やや定期的な検討・検証がお座なりになりがちであるため、引続き計画的に検討・検証の場を設けていきたい。		
2 学校運営	評価	エビデンス
自己評価： 関連分野における先端的な知識・技能等の修得および教育内容の改善を目的として、ChatGPTの研修や、動画教材のUdemyなど、職員のオンライン研修を進めている。業務の効率化については、校務管理システム「S-wing(エス-ウィング)」の導入を進めている。まずは情報の一元化と共有化を目指し、業務効率化の基盤作りに取り組む。		
3 教育活動	評価	エビデンス
自己評価： ICTを活用した授業への対応策の一環として、まず2つの教室に最新のプロジェクターを導入した。板書が減り授業の効率は上がったが、学生の学習成果の改善につながっているかが明確でないことや、機能の一部しか活用できていないなどの課題がある。教育方法・評価方法については、学校全体で校務システムの導入に着手しており、そのシステムを活用した教育方法・評価方法を検討し、より客観的で効率的な体制構築に取り組んでいきたい。		
4 学修成果・教育成果	評価	エビデンス
自己評価： 就職については、就職課で導入したシステム「Careermap(キャリアマップ)」の運用を開始した。就職に関する情報共有、活動状況の把握、連絡ツール等として使用している。まだ慣れない面もあるが、今後も運用方法を工夫して学生の就活支援につなげていきたい。卒業生の社会的評価については、これまで職員のSNSや学校行事や在校生の就活を通じた情報収集に頼ってきたが、今後はCareermap等を利用して、卒業生の活躍状況などを紹介していく。学習成果、資格取得については、導入を進めているシステム「S-wing」へのデータ移行・データ入力の作業を順次進めている。以前から教務部・就職課・事務局が日常的に活発に情報共有し、協力し合って学生を支援する関係性ができているが、システム導入により更に情報共有を強化し、利便性向上と効率化を図っていきたい。		
5 学生支援	評価	エビデンス
自己評価： 修学支援、学生生活、学生相談、中途退学への対応、就職進路指導、保証人(保護者)との連携については、主に担任が窓口となり、当事者からの十分なヒアリング、本人の意志確認、保護者との密な連絡に注力して対応している。内容に応じて就職課や事務局とも連携して対応している。今までのところ大きな問題となることはなく機能してきた。しかし、年々心身に問題を抱える学生が増加し、それに伴い学生や保護者との面談や相談が必要なケースも増加し、担任の負担が重くなっている。このまま増加傾向が続く場合、何らかの対策が必要となる。卒業生・社会人支援については、卒業生個別の相談を職員が個別に受けている。職員の判断で必要に応じて就職課等と連携して対応しているが、導入中のシステムに、卒業生について記録・分析する仕組みを追加することを検討していきたい。		

6 教育環境	評価	エビデンス
<p>自己評価：</p> <p>教育環境整備については、電子黒板の導入など、学生がより学びやすい環境を整えて利用を開始している。また、校舎の空間に限りがあり、参考図書や関連図書については満足できる設置ができていないが、学生からのオンライン面接を校内で受けたいという要望には、設置場所を確保して導入を進めている。安全管理については、防火管理者を選任し、避難訓練も実施しており、今後も学生の安全管理を徹底していく。教室の数や収容人数の関係で、学科によって密な状況となっている。人混みが苦手な学生が体調不良等を起こす頻度が増しており、担任は対応に苦慮している。今後何らかの方策を検討すべきである。様々な制約の中で、できることから改善していきたい。</p>		

7 学生の受入れ募集	評価	エビデンス
<p>自己評価：</p> <p>学生募集は前年より若干減少したが、総定員の8割を維持している。本校の歴史と実績に加え、手厚い学生サポートは高校教員への信頼につながっている。高校との信頼関係の構築ができていないこと、また様々な媒体で学校の魅力を発信できたことなどが学生募集につながったと思われる。ビジネス系の出願数は維持や増加したものの、引き続きIT系の競合他校との差別化をさらに明確にしていくことが学生募集に必要不可欠だと考える。</p>		

8 教育の内部質保証システム	評価	エビデンス
<p>自己評価：</p> <p>教育の内部質保証については、引き続き職業実践専門課程の認定に伴い順次対応を行っている。個人情報保護については各学校で独自の管理を行っており、統一化されていないため、令和5年度から情報管理システムを導入して、データ移行作業を進めている。今後も作業を順次進めていき、一元管理を行うとともに、管理体制を階層化し、責任の所在を明確にして管理を徹底していきたい。</p>		

9 財務	評価	エビデンス
<p>自己評価：</p> <p>今年度も一定数の入学者を確保でき、施設設備投資なども行っている。ただ、18歳人口の減少や大学等への進学率上昇に伴い、専門学校運営は厳しい状況になっていくので、他の収益事業の検討も含めて財政基盤の安定化を図っていきたい。</p>		